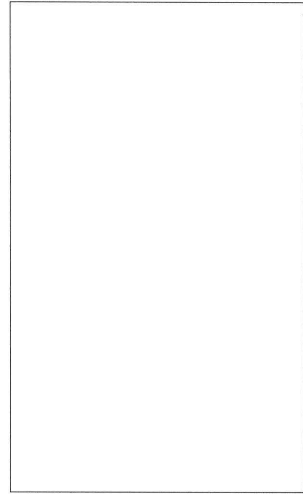


④ (旧記 土地)

(表紙 題箋なし)



(朱書) (一) (一) 廿の朱書傍注は省略

一、大伝馬町・通旅籠町新道御明被成、右ニ付会所切地沽券高并下水幅家作取払、其外一件

〔二〕 一、通旅籠町南会所稻荷社一件之事

〔三〕 一、大伝馬町会所ニ而代地被下置候ニ付、名主支配付一件

〔四〕 一、通旅籠町会所残地御払ニ相成、延寿院落札ニ而買請候一件

附稻荷社之事

〔五〕 一、同町地尻御預地買請願一件

〔六〕 一、道御奉行所より被仰渡候儀ニ付証文之事

〔七〕 一、日本橋内外町屋裏会所明地ニ有之候処、右会所新道ニ相成候年月御尋之事

〔八〕 一、所々屋敷ノ猥ニ間数打候儀ニ付被仰渡之事

〔九〕 一、町々往還ニ相掛り候諸願筋之儀ニ付返答書、并御番所・道御奉行所願方之儀、其外一件

〔十〕 一、町絵図町名等之儀ニ付差出候書付之事

〔十一〕 一、大伝馬塩町土手取崩有之儀ニ付、御徒目付衆江書付差出候段訴之事

〔十二〕 一、本銀町壺丁目より大伝馬塩町・小伝馬上町迄土手藏地之始末不残一件書留、但牢屋敷御忠節願共

〔十三〕 一、大伝馬塩町土手向藏地之始末一件、書留并絵図共

〔十四〕 一、同町統阿部友之進拝借地名主支配付一件

〔十五〕 一、右同人葉草場之内藁葺小屋之儀御尋之事

〔十六〕 一、同町竹屋吉右衛門材木商売相止、綿問屋仕候ニ付書上之事

〔十七〕 一、大伝馬町壺丁目家持六郎兵衛所持地面間数不足ニ付、書付

取候事

〔十八〕 一、通旅籠町清須美源太郎御代官より前借致候ニ付、所持屋敷書上之事

〔十九〕 一、大伝馬塩町久左衛門新規湯屋相願候ニ付、障有無御尋之事

〔廿〕 一、湯屋相願候節之儀ニ付、先例書付差出候事

(朱書)

〔一〕 一、大伝馬町壺丁目式丁目・通旅籠町新道被仰付候一件

一、今度新道被仰付候ニ付、私屋敷式間半御切、下水三尺共田舎間三間道ニ被仰付、今日傍示杭御打被成、右道幅之間数今日より三十日切ニ取払可申様被仰付奉畏候、右日切之通急度取払可申候、仍如件

宝永元年申八月晦日

通旅籠町南側

屋敷主 次 助

五人組 又右衛門

同 平右衛門

如斯木原与右衛門殿
当所ニ而壹枚納申候 馬込勘解由殿

一、今度新道被仰付候ニ付、私屋敷式間半御切、外ニ下水三尺共田舎間
三間道ニ被仰付、今日勝示杭御打被成、右道幅間数今日より急度取
払可申様被仰付奉畏候、右之通急度取払可申候、仍如件

宝永元年申八月晦日

通旅籠町南側

屋敷主 善右衛門

五人組 徳右衛門

同 八兵衛

同 八郎兵衛

馬込勘解由殿

差上申手形之事

一、今度拙者共町内之会所新道御明被遊候ニ付、先年新道御明被成候節
之通新道幅三間半ニ被仰付候、依之拙者共屋敷地尻ニ先規より壹尺
四寸五分之御預ケ地有之候処、此度新道幅三間道ニ被遊候ニ付、右
壹尺四寸五分之所先規之通御預ケ被遊難有奉存候、重而御用之節壹
尺四寸五分之所何時成共差上可申候、尤拙者共地尻御座候三尺之下
水之上丈夫ニ板蓋仕、往還之者怪我不致候様可仕候、若此旨違背仕
候ハ、何様ニも可被仰付候、為後日仍如件

宝永元年申八月晦日

久兵衛

平右衛門

権左衛門

宇右衛門

三左衛門

又兵衛
清 六

如斯手形与力衆一枚ツ、三人江三枚
木原与右衛門殿江一枚、奈良屋殿江一枚 馬込勘解由殿

差上申手形之事

一、今度新道被仰付候付、私屋敷式間、通旅籠町地尻三尺通り御切り、外ニ
下水三尺共田舎間三間道ニ被仰付、今日勝示杭御打被成、右之道幅
之間数今日より三十日切ニ取払申候様被仰付奉畏候、右日切通急度
取払可申候、仍如件

宝永元年申九月朔日

通旅籠町北側

屋敷主 権兵衛

五人組 六兵衛

同 太郎左衛門

同 儀左衛門

如斯木原与右衛門殿江
当所ニ而一枚納申候 馬込勘解由殿

差上申手形之事

一、今度新道被仰付候ニ付、私屋敷式間通旅籠町地尻三尺通御切、外ニ
下水三尺共田舎間三間道ニ被仰付、今日勝示杭御打被成、右之道幅
之間数今日より三十日切取払申候様被仰付奉畏候、右日切之通急度
取払可申候、仍如件

宝永元年申九月朔日

通旅籠町北側

屋敷主 与兵衛

五人組 又左衛門

同 又兵衛

如斯前ニ同断 馬込勘解由殿

差上申手形之事

一、今度新道御明被遊候ニ付、私共屋敷地尻三尺通御用地ニ被召上、下水共ニ田舎間三間道ニ被仰付、今日勝手杭御打被成、今日より三十日切取払申候様被仰付奉畏候、尤私共地尻三尺之下水之上丈夫ニ板蓋仕、往還之者怪我不仕候様可仕候、若右之旨違背仕候ハ、何様ニも可被仰付候、為後日連判之手形差上申候、仍如件

宝永元年申九月朔日

通旅籠町北側

孫兵衛

又左衛門

五左衛門

万右衛門

清右衛門

善兵衛

久兵衛

六兵衛

馬込勘解由殿

越前守様御組

安藤小左衛門様

遠江守様御組

御改役人衆 加藤九郎兵衛様

土佐守様御組

満田作左衛門様

大伝馬町壺丁目式丁目新道御用地売券書上

一、壺丁目上下横町西東 代金貳百五拾兩 小間壺間ニ付

一、式丁目上下横町西東 代金百九拾兩 同断

一、式丁目南ヶ輪表町 代金貳百兩 同断

一、式丁目南ヶ輪下横町 代金百六拾兩 同断

右之通相違無御座候、以上

宝永元年申八月

大伝馬町壺丁目・式丁目

月行事 市郎兵衛

同 甚兵衛

名主 勘解由

大伝馬町壺丁目会所売券書上

一、大伝馬町壺丁目会所町屋敷ニ罷成候ハ、裏行拾七間余、小間壺間ニ付

代金三拾七八兩程

右之通相違無御座候、以上

宝永元年申八月

大伝馬町

月行事 市郎兵衛

同 甚兵衛

名主 勘解由

鉄炮町

月行事 弥兵衛

同 権左衛門

名主 甚兵衛

大伝馬町式丁目会所売券書上

一、大伝馬町式丁目会所町屋敷ニ罷成候ハ、裏行拾貳間余、小間壺間ニ付

代金貳拾五六兩余

右之通相違無御座候、以上

大伝馬町式丁目

月行事 市郎兵衛

同 甚兵衛

名主 勘解由

小伝馬町
月行事
市兵衛
名主
又四郎

〔朱書〕
二二 覚

一、通旅籠町南之会所ニ自古来稻荷之御社有之候処、此度新道御明被成候
ニ付、服部永元屋敷之内ニ罷成候処、会所之内表口式間余之明地之
候ニ付、御社残地ニ差置申度段、丹羽遠江守様江為壹丁中願上候得者、
残地御預ケ被成候儀難被成候、当分御社遷置候様ニと永元代次助并五
人組・名主被召出被仰渡候、町中取持右之残地江御社遷置申候、就夫
御社鑑永元方ニ在之候を町内江請込、廻り持ニ可致哉与相談申候得者、
鑑之儀者永元方ニ預り度由被申候ニ付、貴殿御了簡を以前々之通、鑑・
宝物永元方ニ差置申候、尤散錢・奉納何ニ而も町内請取、御社建立・修
復等入用ニ遣申候、勿論永々信仰可仕候、右残地御用ニ被召上候ハ、
町中ニ而社地借り候歟、又者永元屋敷江遷置候共壹丁目より地代出可申
候、和談之上談合次第可仕候

右之通今度相極、以来少茂相違有間敷候、尤祭礼之節奢ケ間敷儀為致申
間敷候、随分檢約ニ可仕候、為後日仍如件

宝永二年酉二月

永元代

治助

五右衛門
平右衛門
権左衛門
宇右衛門
八郎右衛門

三左衛門
又兵衛
清六
善右衛門
徳右衛門
八兵衛
三郎右衛門
与兵衛
孫兵衛
又左衛門
万右衛門
清右衛門
善兵衛
五左衛門
久兵衛
六兵衛
権兵衛
太郎左衛門
儀右衛門
永元

〔朱書〕
二三 差上申手形之事

一、私共屋敷新道御用地ニ被召上、大伝馬町式丁目会所ニ而代地被下置
候、右代地屋敷名主附之儀、唯今迄之通名主勘解由支配附可申旨被
仰付難有奉存候、然上者自今以後諸事御法度・御触事等私共儀者不
及申、借屋・店借・地借・召仕等迄名主勘解由支配請、急度相守可
申候、并月行事役・人足役・諸役元地間口之通相勤可申候、為後日
仍如件

宝永二年酉四月

大伝馬式丁目西横町

利兵衛

同東横町 庄右衛門

同所 善三郎

同式丁目 嘉右衛門

同町 忠三郎

町三人

年寄衆中

右之代地屋敷拙者支配可仕旨被仰付難有奉存候、然上者諸事入念相勤可申候、以上

酉四月

名主 勘解由

〔保書〕

〔四〕 通旅籠町会所残地御払ニ相成、延寿院落札ニ付買請候一件

差上申証文之事

一、通旅籠町会所残地今度御払ニ罷成入札被仰付、同町祈禱者延寿院落札ニ付今日御渡被成候、然処右之残地之内町内ニ有来候稻荷之祠御座候、外之所江引移し候共何れニも龜末ニ無之様可仕旨被仰付奉畏候、若向後延寿院相对ニ而右之場所ニ差置候共、宮地之様ニ不仕人集等不致、所之鎮守迄ニ仕置可申候、尤右之場所ニ差置候共延寿院別当等と申間敷候、若違背仕候ハ、加判之者迄何分之曲事ニも可被仰付候、為後日仍如件

宝永七年寅十月十七日

通旅籠町

名主

勘解由

残土買主

延寿院

五人組

文左衛門

同

佐兵衛

松浦弥次右衛門殿
小泉新五右衛門殿

同 同
庄兵衛
弥右衛門

右之通 遠江守様御番所江貴殿并五人組加判ニ而証文差上申候、右御奉行方・奈良屋市右衛門殿御立合寸間御改御引渡有之、絵図面延寿院判形貴殿御加判被成候通少も違背申間敷候、則稻荷小社延寿院屋敷之内ニ移置候、町並之役等町中家主中相勤申候、地代金共相对仕候、尤社之儀龜末ニ不仕、修復等之儀町内より相調可申候、勿論御初穂金銀・散錢ニ付互ニ申分仕間敷候、此度延寿院町内家持中証文為取替候通少茂相違無御座候、依之帳面之奥ニ証文并町年寄之裏書之売買券写置候、為後日町中連判仍如件

宝永七年寅十月十八日

延寿院
弥右衛門
文左衛門
庄兵衛
佐兵衛
伝兵衛
十左衛門
八郎右衛門
三左衛門
又兵衛
平六
善右衛門
德兵衛
八兵衛
三郎右衛門
孫兵衛
又左衛門

五左衛門
万右衛門
清右衛門
十兵衛
久兵衛
六兵衛
伊右衛門
忠兵衛
長兵衛
与兵衛

馬込勘解由殿

一札之事

一、此度御町内南新道表田舎間式間壹尺裏行町並之屋敷、從 御公儀
樣御取払ニ罷成候ニ付拙僧相求申候、然ル処御町内ニ有之候鎮守稻
荷小社拙僧屋敷内江御預ケ被成預リ置申所実正也、依之右屋敷之分
一金并諸役等向後御用捨被成置忝存候、若町内御勝手ニ付右之小社
御取返し被成度節者早速相返し可申候、又者拙僧勝手ニ而此屋鋪売払
候節者、諸役等町内一同差出急度相勤可申候、勿論拙僧屋敷之内ニ
小社差置候内ハ町内売券之節分一金割拙僧方江請取申間敷候、為後
日一札仍如件

宝永七年寅十月

延寿院

通旅籠町

家持衆中

一札之事

一、貴僧御屋敷之内町内鎮守稻荷小社御預ケ置申候所実正也、依之諸役

等用捨仕候、若其許勝手ニ付右之小社町内江御返し被成度節者、早速
此方江請取可申候、勿論小社御返し被成候上者町内一同ニ諸役御勤
可被成候、為後日一札仍如件

宝永七年寅十月

延寿院法印

通旅籠町中

月行事
又左衛門
同 五左衛門

永代売渡申屋敷之事

一、今度通旅籠町南会所割余り御払地、表田舎間式間壹尺裏行同東之方
拾八間四尺六寸・西之方拾八間三尺入札被仰付候処、貴殿落札ニ有
之間売渡へく旨被仰付、代金四拾壹兩壹分ニ永代売渡申所実正也、
諸役等之儀者町並次第可被致候、代金之儀拙者共請取則奈良屋市右
衛門殿迄差上申候、為後日名主・五人組加判之沽券状仍加件

宝永七年寅十月

通旅籠町

五人組
弥右衛門
同 文左衛門
同 佐兵衛
同 庄兵衛
名主 勘解由

延寿院殿

表書之通紛無之候、以上

奈良屋市右衛門
樽屋藤左衛門
喜多村彦右衛門

覚

一、町内鎮守稻荷祠延寿院地之内ニ預ケ置証文取置申候、并宝物共預ケ申候

宝物之覚

一、鑑 壹ツ 一、白狐 貳疋 一、斗帳 壹張

一、鰐口 三ツ 一、幟 拾貳本 一、銅灯籠 壹対

一、稻荷差置候地代之儀者壹ヶ年ニ銀九拾目、延寿院貳間壹尺之屋敷小間掛り役等并月行事町中ニ而相勤候ニ付右之地代出シ不申候

一、社修復之儀者町内より仕候筈ニ御座候

一、參錢之儀者延寿院方江納申筈ニ御座候

一、毎年正・五・九月御初穂鳥目壹貫文宛并例年初午鳥目貳貫文宛納申筈ニ御座候

右之通町中立合相談之上相極申候、以上

寅十月

月行事

寅十月

佐兵衛

德右衛門

〔朱書〕
「五」 通旅籠町地尻御預地買請之願書

以書付申上候

一、通旅籠町南側町人七人之者共申上候、去ル宝永元申年私共町内兩側共新道被仰付候節、南側町並私共屋敷地尻より大下水際壹尺四寸之余慶地有之由ニ而、私共七人方江御預ケニ罷成、其節木原与右衛門方

江連判之証文差出申候、右御預地之儀者町内南側屋敷境ニ幅壹間之大下水先規より有之候処、六拾貳年以前酉年新道被仰付候節、右壹間之下水幅三尺ニ埋地被仰付、右三尺之内壹尺六寸者道幅御入被成、残り壹尺四寸者町並御預ケ地ニ罷成候処、三拾七年以前戌極月類焼以後新道御塞キ被成候節、右御預ケ地被召上会所ニ罷成候由ニ付、拾五年以前申年又候新道被仰付候節も往古之通御預ケ地之証文差出候処、木原与右衛門方より被申渡候ニ付則証文差出申候、然ル此度御改被成御吟味之上右御預ケ地壹尺四寸町並御預地ニ被仰付候間、先年町御改之節差上候絵図之沽券高を以買上候様被仰付、則勘定仕差上申候

一、表拾四間裏行拾九間 壹尺四寸ニ拾四間 次郎兵衛

一、表六間裏行拾九間壹尺九寸 此坪数三坪貳合六勺七才 此代金拾三兩四匁八厘

一、表七間半裏行拾九間壹尺九寸 此坪数壹坪四合 壹尺四寸ニ六間 伝兵衛

一、表七間半裏行拾九間壹尺九寸 此坪数壹坪七合五勺五才 此代金五兩貳分六匁

一、表七間半裏行拾九間壹尺九寸 此坪数壹坪七合五勺 壹尺ニ七間半 市右衛門

一、表七間半裏行拾九間壹尺九寸 此坪数壹坪七合五勺 此代金七兩

一、表七間半裏行拾九間壹尺九寸 此坪数壹坪七合五勺 壹尺四寸ニ七間半 久右衛門

一、表五間半裏行同斷 此坪数壹坪貳合八勺三才四 此代金七兩

一、表七間半裏行同斷 此坪数壹坪七合五勺 壹尺四寸ニ五間半 三左衛門

一、表七間半裏行同斷 此坪数壹坪七合五勺 壹尺四寸ニ七間半 又兵衛

一、表拾貳間半裏行同斷 此坪数貳坪九合壹勺七才 壹尺四寸ニ拾貳間半 利左衛門

一、表拾貳間半裏行同斷 此坪数貳坪九合壹勺七才 此代金拾壹兩貳分ト拾匁八厘

一、表拾貳間半裏行同斷 此坪数貳坪九合壹勺七才 此代金拾壹兩貳分ト拾匁八厘

一、表拾貳間半裏行同斷 此坪数貳坪九合壹勺七才 此代金拾壹兩貳分ト拾匁八厘

惣金高合五拾六兩壹分拾三匁八厘

享保三年戊五月

願人 次郎兵衛
同 伝兵衛
同 市右衛門
同 久右衛門
同 三左衛門
同 又兵衛
同 利左衛門
五人組 五左衛門
同 清右衛門
名主 勘解由

以口上書申上候

一、通旅籠町南側七人之家主共申上候、私共屋敷地尻御預ケ地之儀、此度御払地ニ罷成候段先達而被仰付候ニ付、其節新道沽券之坪割之代金を以私共方江御払被仰付候様ニと申上候処、直段下直ニ御座候ニ付致増金買請可申旨被仰渡候、依之私共寄合相談候処、右御預ケ地之儀者地尻奥行之儀ニ御座候、殊ニ私共近年度々類焼ニ逢、段々困窮仕迷惑奉存候得共、達而増金仕候様度々被仰渡候儀ニ御座候故色々相談仕致増金書付差上申候

御預ケ地奥行壹尺四寸長六拾間半

此坪数拾四坪壹合壹勺七四 代金八拾五兩

先達而書上候新道沽券之割合ニ式拾八兩貳分ト壹匁八分式厘増

右直段ニ而御払被仰付被下候ハ、早速代金差上買取可申候、以上

享保三年戊五月

願人七人・五人組兩人
前書名前同斷

通旅籠町南側七人之屋敷地尻預り地沽券之事

永代売渡申屋敷之事

一、通旅籠町南側各七人屋敷地尻ニ而幅壹尺長六拾間半先規より御預り地有之候処、今度各御買上申度旨喜多村彦右衛門殿迄願被申候得者、則 中山出雲守様江被仰上候ニ付可売渡旨被仰付、代金八拾五兩ニ永代売渡申所実正也、諸役等町並次第可被致候、代金之儀者我等共請取喜多村彦右衛門殿江差上申候、仍如件

享保三年戊六月

通旅籠町
月行事 利兵衛
同 多助
名主 勘解由

次郎兵衛殿
市右衛門殿
久右衛門殿
三左衛門殿
又兵衛殿
利左衛門殿

表書之通紛無之候、以上

喜多村彦右衛門
奈良屋市右衛門
樽屋藤左衛門

前書七人之者江壹尺四寸宛沽券手形名主・月行事印形ニ而銘々江相渡候事

〔朱書〕
「六」

道御奉行有田忠右衛門様・新喜太郎様被仰付候ニ付、喜太郎様江御呼被成証文被仰付候覚

道之儀只今迄之通ニ而能御座候得共、所々堀候所・切かき候所高下御座候而不陸御座候、且又橋際敷石際下りふろく^(不陸)之所も御座候、下水横溝蓋敷罷成危所又者木戸境杭残候所古井戸穴埋掛有之、此段急ニ道造直^{出題}□ニ者及ず候、惣而道之儀者人々家之前心掛ケ連々高キ所けづり下キ所江置、又者不宜所者心懸造可申候事ニ候間、自今以後右之趣相心得候而自然与道平ニ罷成候様可仕候、且又下水之儀折々浚、道江流不申候様可仕候、私支配之分横町迄も可申渡旨当月二日御廻り之節月行事之者ニ被 仰渡委細承知仕候、右之趣申渡可申候、為其如斯御座候、以上

子十一月

大伝馬町 壹丁目

同塩町 貳丁目

通旅籠町

堀留町 壹丁目
貳丁目

伊勢町

名主

勘解由

右者享保五年子十一月被仰渡

〔朱書〕
「七」

一、日本橋内外町屋裏往古より会所明地ニ而有之候処、渡辺大隅守殿町

御奉行之節、右会所ニ新道明キ候

此時節者今より何十年以前何年ニ候哉

右之後今より三拾八年以前戊極月廿八日火事之翌年右新道ふさかれ候

右之後今より拾六年以前申年、又新道明キ候事
享保十六年亥年書付

〔朱書〕
「八」

一、近來所々屋鋪之間敷打候者有之由相聞、惣而屋敷之間敷打候儀者御普請奉行より仕事ニ而、其屋敷江申届候上間敷打候事ニ候、右届も不仕候而屋敷辺間敷打候者有之候ハ、屋敷主又者辻番より相触不分明ニ候ハ、其断留置、御普請奉行又者向寄之御目付江可被届候、右之趣可被相触候、以上

亥十月

右之通為心得名主共江見せ置可申段、町御奉行所より被仰渡候間、可被得其意候、以上

十月十三日

右者享保十六亥年十月被仰渡

〔朱書〕
「九」

町々往還ニ相掛候古來諸願只今迄心得違も御座候間、自今御願筋之儀ニ付、以書付御返答申上候

一、道造之事

此儀古來者御願不申上道造致来候由及承候、然ル所近年者御番所并道御奉行様江も御願申上道造仕、只今者両御願ニ罷成候事

一、町内番屋并木戸新規之事

此儀古来者御番所江御願申上普請仕候、道御奉行様江者御届不申上候処、近来御番所同様道御奉行様江も御願申上候事

一、有来木戸番屋普請之事

此儀先規何方江も御願不申上候処、近年者御番所江御願申上、御見分之上被仰付候、尤道御奉行様江御願申候町々も御座候

一、普請之内店前土置場・板囲出小屋

此儀先規者町年寄衆御帳面ニ附候迄ニ而相済、近来道御奉行様江御願申上候、又者御番所江も御願申上候町も御座候、御番所江御願申上候得者御見分被下置候事

一、往還ニ有之候下水落樋枅新規・修復等之事

此儀先年者何方江も御願不申上候由及承候処、近年道御奉行様江御願申上候事

一、糴・甲商売人出小屋掛候事

店前ニ商売物之看板柱建候事

諸商売人店前虫干之事

青物見世并着見世之類昼之内計日覆仕候事

紺屋張物仕候事

店前ニ薪并古木之類積出置候事

此儀前々より何方江も御願不申上、往還之障ニ不罷成様右之類差置候処、道御奉行様御見咎之上御願申上候様被仰渡候ニ付、近キ頃者御願ニ罷出候町々茂御座候事

右之通ニ御座候得共疋与仕候古来之書留も無御座、勿論當時御願方之儀、町々不同ニ御座候ニ付、此上自然間違之儀も可有御座哉と此段迷惑至極

奉存候、何卒両御願之筋相止ミ古来之通ニも被仰渡被下候得者、間違も出来仕間敷哉与難有奉存候、以上

西七月

大伝馬町	勘解由
平右衛門町	平右衛門
弥左衛門町	伊左衛門
鎌倉町	平次郎
大鋸町	茂兵衛
兼房町	甚次郎
茅町	弥兵衛
西紺屋町	五郎左衛門
新網町	惣十郎
通老丁目	藤次郎

以書付申上候

一、此度御尋ニ付御番所并道御奉行所江御願申上、古来當時御願方之儀別紙書付差上申候、尤別紙ニ申上候古来致方之儀者御番所江御訴申上候計ニ而相済来候処、近来町方ニ有来候木戸番屋等修復御願御番所江申上候得者、修復取懸り候節御見分被下、出来御届申上候得者又候御見分被下置候、何茂ケ様之筋ニ罷成、町内物人多町人共至極迷惑仕候、尚又此以後道御奉行所江御願不申上、御番所御届迄ニ而相済可申儀ニ御座候得者、名主・町人共難有奉存候得共、乍然及度々ニ御見分被下候筋ニ罷成候而者、却而町々物人多罷成至極迷惑可仕義ニ奉存候、此段表立難申上儀ニ御座候間、蜜々申上置候、以上

西七月

以書付申上候

一、町中有来候井戸上ケ輪并たか掛直、亀甲矢来仕直繕之儀、去々年茂

申上候通、先年者道御奉行様江も右之類御願不申上相済来候儀ニ御座候間、何卒右之通被成下候ハ、名主共弥以入念吟味仕候而、右之類仕直候様仕度奉願候、以上

酉七月

大伝馬町名主	勘解由
平右衛門町名主	平右衛門
弥左衛門町名主	伊左衛門
通四丁目名主	藤次郎
鎌倉町名主	平次郎
大鋸町名主	茂兵衛
兼房町名主	甚次郎
茅町名主	弥兵衛
西紺屋町名主	五郎左衛門
新網町名主	惣十郎

右者寛保元酉年

〔朱書〕
「十」 口上之覚

一、拙者支配之町絵図御覽被成、江戸御絵図町々小名御写可被成旨被仰渡奉畏候、早速掛御目可申候所、私共御支配方より未被仰渡無御座候間、御支配方江御覧申上御差図を請候上、懸御目可申候、以上

戌九月十七日

名主 勘解由

右之通享保三年戌九月十七日片山三七郎様御役人衆江差上候処、同十九日右御役人御出、絵図御写被成候

一、本銀町名主太郎右衛門・大伝馬町名主勘解由・小伝馬町名主又四郎申上候、一昨五日御徒目付都筑又左衛門殿・神谷清大夫殿・西脇十郎右衛門殿右三人御廻り被成、拙者共町内土手取崩シ在之候儀御尋被成候ニ付、右土手之儀西紺屋町権七与申者土手藏御請負申上候ニ付、右権七方より土手之儀支配仕候段申上候得者、右之趣致証文并土手之絵図仕差出候様被仰付候ニ付、昨六日絵図・証文共ニ相認差遣申候、依之為御届申上候、以上

戌十月

名主太郎右衛門病氣ニ付代

清助
名主 勘解由
同 又四郎

十月七日御月番大岡越前守様江差上候

〔朱書〕
「十一」

一、大伝馬塩町土手跡明地ニ而請負人取立不申候ニ付、享保四年亥三月六日 中山出雲守様御内寄合江 大岡越前守様御立合、西紺屋町名主六右衛門殿・此方被召出被仰渡候趣、六右衛門儀者土手請負人権七支配仕殊ニ加判等も仕候者、勘解由儀者支配場所之儀ニも有之間、兩人世話仕、右土手跡ニ土手藏早々取立可申候、左候ハ、右土手地永々御預ケ被下置候様被仰渡候、依之右土手御掛り之与力衆吉田政右衛門様・原兵左衛門様・島田久左衛門様其外町年寄三人之衆中江も右御届御礼六右衛門殿・此方相廻り申候、尤右之節御番所江証文等ハ差上不申候、追而土手藏出来次第右土手地永々被下置之趣、言

上御帳ニ相附申等ニ御座候

右土手藏同年九月出来ニ付、同十八日 越前守様御内寄合江被召出、右土手地永々被下置候旨言上帳ニ相附申候、則其節并同日差上候出来之土手藏絵図・前方願書之写張置候

〔朱書〕十二 乍恐以書付奉願上候

一、本銀町壺丁目より大伝馬塩町・小伝馬上町迄之間土手通藏主共申上候、本銀町土手之儀者先年願人西紺屋町權左衛門・上槇町善吉・松永町長十郎右三人藏地ニ被仰付候處、本銀町壺丁目・大伝馬塩町・小伝馬上町右三町不残土手取崩空地ニ仕、相残土手も石垣取払、剩土石等売払藏成就不仕段々不埒ニ御座候而、其上願人三人共死失仕候、依之御 公儀様御入用ニ而如元土手御築立被遊候儀、御吟味御座候處、凡四千八百兩余相掛り可申御積ニ御座候處、御 公儀様御入用ニ而も難被遊、請負之者も無御座候ニ付、其節名主六右衛門ニ被仰付、地面永々可被下置候間、藏仕立可申者を見立片付候様被為仰付候ニ付、空地之場所不残藏取立御 公儀様御入用相掛り不申、私共手前入用を以空地之場所藏仕立藏地不残成就仕候處、借藏之儀近年段々不繁ニ罷成、藏借り候者無御座、明藏多御座候ニ付、破損修復物入等相掛り至極困窮仕候、其外相残候藏地式丁目・三丁目・四丁目右三町土手名主六右衛門ニ被下置、前店助成を以破損修復等仕候様被仰付候得共、是又前店空地多殊ニ土手三町共先請負人石垣

等取払置候ニ付柵仕、土手年々修復仕候得共大雨之時分ハ土洩出土手自然与低く罷成、川江も土流入申候、只今迄之通打捨置候而者段々土手も欠崩可申候間、石垣ニ築直し不申候而者たち不申候、然共右之儀自分入用ニ而者中々出来不仕候、且又川通ニ者前々より石垣御座候得共地形低御座候ニ付、藏地并土手地形共ニ川江流込候ニ付、是又石垣築足シ地形一面ニ仕度候、殊ニ土手三町共只今迄者漸高サ壺丈式三尺程有之候所、此度三間通り切狭メ數五間ニ仕、前後左右共ニ石垣築立土手惣高サ壺丈八尺ニ仕立、六町分地尻川通り有来候石垣相用築足申候得者川埋不申、通船之もの難儀不仕、土手高く罷成候得者火除ニも相成可申与奉存候、右之通仕立申度奉存候得共、只今迄之前店成助^{（成助）}ニ而者中々出来兼申候、依之此度奉願上候者、先達而被下置候地面之内前店取払別紙絵図面之通、本銀町壺丁目之内藏地式ヶ所、大伝馬塩町之内藏地式ヶ所、小伝馬上町之内藏地式ヶ所、此分不残住居藏ニ被仰付、本銀町式丁目・同三丁目・同四丁目此分者有来土手數幅八間之内三間通切狭メ、數五間高サ壺丈八尺之土手ニ仕、有来候奥行式間之前店三間通相延、奥行五間之住居藏ニ被仰付被下置候ハ、只今迄相勤来り候牢屋脇大土手・小土手新規并破損修復・草刈等古来之通相勤、外ニ為冥加金七百兩被仰付候、翌年より拾年賦ニ上納仕候様奉願候、別紙絵図面之通被仰付被下置候得者石垣等成就仕、永々修復破損之助成ニ罷成り御救与難有奉願上候、以上

元文四年未正月

本銀町壺丁目
藏主 善兵衛
同町

同 四郎右衛門

同式丁目三丁目四丁目

土手并

大伝馬塩町蔵主

西紺屋町名主

五郎左衛門

大伝馬塩町名主

同所蔵主

勘解由

小伝馬上町名主

同所蔵主

又 四郎

一、西紺屋町名主五郎左衛門・大伝馬町名主勘解由・小伝馬町名主又四郎、本銀町蔵主善兵衛・四郎右衛門申上候、本銀町壹丁目より大伝馬塩町小伝馬上町迄之間、土手蔵年々崩落候ニ付可致修復処、難及自力候ニ付、此度奉願候者絵図面置絵図之通有来り候土手廻り石垣ニ仕、土手敷五間ニ高サ壹丈八尺ニ築立、敷三間減候分者前店奥行五間ニ相延、住居蔵ニ仕度旨并當時物置蔵五ヶ所前店相延裏行拾壹間、是又住居蔵ニ致度段、願之通被仰付候ハ、牢御屋敷脇火除大土手并同所廻り小土手唯今迄之通新規・修復共仕、其上為冥加金来申年より拾ヶ年ニ金七百両上納可仕旨、当正月当 御番所江奉願候得者、段々御吟味之上今日被 召出、隣町江も相障儀も無之候ニ付、願之通被 仰付難有奉存候、為後日申上候由右之五郎左衛門・勘解由・又四郎・善兵衛・四郎右衛門同意申来候

右言上元文四年己未六月十三日 筑後守様御番所江奈良屋市右衛門殿

被召連 御前江被召出、願之通被 仰付候、從是 筑後守様御番所御掛り、依之前々之言上之末ニ者記不申、相改り筑後守様御番所ニ而言上御帳ニ記、同日 土佐守様御番所江写持參御帳ニ記候事

未六月

取替証文之事

一、本銀町壹丁目・貳丁目・三丁目・四丁目、大伝馬塩町、小伝馬上町、右六町之場所先年被下置候地面、今度拾年賦ニ金七百両上納仕、其外御奉公申上、元文四年未六月十三日於 松波筑後守様御番所ニ住居蔵ニ被為仰付、当日言上御帳ニ相記置申候、依之左ニ相定候間、間数書付之通割合差出可申候、尤本銀町貳丁目・三丁目・四丁目、火除土手之儀ハ、御定之通新規・破損修復等五郎左衛門仕立可申候、并外石垣普請其外御 公役町役共銘々場所限ニ相動永々無相違指出可申候、自今親類江無拋相譲り候節者、組合相談之上御公儀様江奉願候而相譲り可申候、若只今迄相動来候外ニ、臨時ニ御役等 被仰付候ハ、貳丁目三丁目四丁目右三町分之間数百三拾九間半之間数ニ而差出可申候、其外之間数者只今迄之通相動可申候

蔵地

一、五拾間

本銀町壹丁目

善兵衛

蔵地

一、四拾貳間

同所

四郎右衛門

土手地

一、百貳拾四間

同式丁目三丁目四丁目分

五郎左衛門

但臨時被仰付候御役等も於有之者、百三拾九間半ニ相勤可申事

藏地
一、貳拾八間

大伝馬塩町

同 人

藏地

一、三拾貳間

同所

勘解由

藏地

一、六拾間

小伝馬上町

又 四郎

〆間数三百三拾六間

右之通相談之上相極候上者、少茂違乱申間敷候、為後日仍如件

元文四年未六月

本銀町壹丁目

善兵衛

同所

四郎右衛門

同貳丁目三丁目四丁目・塩町

五郎左衛門

小伝馬上町

又 四郎

勘解由殿

右者元文四未六月十七日於北鞘町相模屋八右衛門方ニ寄合之上、右同文言ニ而為取替証文五通銘々江取置候事

壹ヶ年分出銀割合左之通

五拾間

一、金拾兩壹分拾匁

四拾間

一、同八兩三分

善兵衛

四郎右衛門

百貳拾四間

一、同貳拾五兩三分五匁

二十八間

一、同五兩三分五匁

三十貳間

一、同六兩貳分拾匁

六十間

一、同拾貳兩貳分

〆

(空白ママ)

差上申証文之事

五郎左衛門

同 人

勘解由

又 四郎

西紺屋町名主

五郎左衛門

大伝馬町名主

勘解由

小伝馬町名主

又 四郎

本銀町

善兵衛

同町

四郎右衛門

右五人之者共奉願候者、前々より所持仕罷在候本銀町より小伝馬上町迄之土手藏、段々破損仕年々土崩、自然与低罷成後通り川江も土流込申候、只今迄之通差置候而者及大破可申与難儀至極仕候、併右修復之儀難及自力迷惑仕候、依之今度奉願候者、別紙かぶせ絵図之通本銀町壹丁目ニ而藏地貳ヶ所、大伝馬塩町ニ而藏地貳ヶ所、小伝馬上町ニ而藏地壹ヶ所、此分住居藏ニ奉願候、本銀町貳丁目・三丁目・四丁目、此分有来土手敷幅

八間之所三間通切狭メ敷五間ニ仕、土手高サ只今壹丈貳三尺御座候、右高サ築足高サ壹丈八尺之土手ニ仕、有来奥行貳間之前店三間通相延奥行五間之住居蔵ニ奉願候、右之通被仰付被下候ハ、右助成を以修復仕相続仕度奉存候、尤只今迄相勤候牢屋敷脇火除大土手并同所廻り小土手新規・修復共仕、其上来申年より十ヶ年ニ金七百両上納可仕段奉願候処、段々御吟味之上当六月十三日 筑後守様江被 召出、願之通被仰付難有仕合奉存候、然ル上者住居蔵并土手前店之住居蔵共ニ普請丈夫ニ仕立、土手高サ壹丈八尺無相違築立、尤来申年より来ル巳年迄壹ヶ年金七拾両宛十ヶ年ニ金七百両無相違上納可仕候、為後証願人共判形仕証文差上候所如件

元文四年未六月

西紺屋町名主

五郎左衛門

大伝馬町名主

勘解由

小伝馬町名主

又四郎

本銀町

善兵衛

同町

四郎右衛門

申渡

西紺屋町名主

五郎左衛門

大伝馬町名主

勘解由

小伝馬町名主

又四郎

本銀町壹丁目より大伝馬塩町・小伝馬上町迄之間、土手前年々崩落候ニ付、可致修復処難及自力候、依之此度相願候者、絵図面置絵図之通有来土手敷八間ニ高サ壹丈貳尺余之所、土手廻り石垣ニ致、土手敷五間ニ高サ壹丈八尺ニ築立、敷三間減候分ハ前店奥行五間ニ相延、住居蔵ニ仕度旨并当时物置蔵五ヶ所前店相止、是又住居蔵ニ致度候、願之通被仰付候ハ、牢御屋敷脇火除大土手并同所廻り小土手只今迄之通新規・修復共仕、其上来申年より拾ヶ年ニ金七百両上納可仕旨相願候

右遂吟味候処隣町江茂障儀無之ニ付、願之通申付者也

元文四年未六月

本銀町

善兵衛

同町

四郎右衛門

乍恐以書付申上候

一、本銀町壹丁目より小伝馬上町迄蔵地後通川端ニ非人小屋御座候、今度川通石垣ニ仕候ニ相障申候ニ付取払申度奉願候、只今迄犬走九尺御座候処、此度三尺ニ仕立候ニ付、普請以後非人小屋仕立可申場所茂無御座、其上地尻ニ非人差置候而借屋之障りニも罷成候、銘々場所見立片付候様被仰付被下候様奉願候、以上

元文四年未七月十二日

西紺屋町名主

五郎左衛門

大伝馬町名主

勘解由

小伝馬町名主

又四郎

本銀町

善兵衛

同町

四郎右衛門

乍恐以書付奉願上候

一、本銀町式丁目・三丁目・四丁目、右三町土手前通往居藏之儀、只今迄私支配仕候処、遠方ニ罷在候故御用御差支ニも可被成哉と恐多奉存候ニ付、同所名主太郎右衛門支配ニ付申度奉願候、願之通被為仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

元文四年未七月十二日

西紺屋町名主

五郎左衛門

〔朱書〕
十三 乍恐以書付奉願上候

一、大伝馬塩町藏地式拾八間之所、名主五郎左衛門ニ被下置持来申候所、此度名主勘解由江右藏地相讓申度奉願上候、尤勘解由儀五郎左衛門縁者ニ而、勿論右藏地者勘解由支配所ニ而御座候、御慈悲を以願之通被為 仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

元文四年未七月十二日

西紺屋町名主

願人 五郎左衛門
讓主

一、五郎左衛門ニ被下置候大伝馬塩町藏地式拾八間之所、前書之通私讓請申度奉願上候、御慈悲を以願之通被為 仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

元文四年未七月十二日

大伝馬町名主

讓請主 勘解由

右之通被為 仰付候、而外ニ相障儀無御座候、右兩人願之通被為 仰付被下置候様一同奉願上候、以上

元文四年未七月十二日

小伝馬上町名主

藏主 又四郎

本銀町

藏主 四郎右衛門

同町

藏主 善兵衛

覚

一、大伝馬塩町ニ而坂部五郎左衛門殿所持之土手藏地式拾八間之所、此度各方三人より文金四百五拾兩被差出、我等名題ニ而讓請度旨先達而被仰聞得其意、右場所讓請之御願差上候ニ付、右之内為手付金今晚文金式拾兩請取、則明朝御願罷出候、則五郎左衛門殿江相渡可申候、此上讓願被仰付次第殘、而四百三拾兩各方より請取候ハ、坂部五郎左衛門殿江相渡、証文請取次第此手形与引替可申候、以上

元文四年未七月十一日

馬込勘解由

喜多出四郎左衛門殿

伊勢屋権兵衛殿

竹屋市兵衛殿

証文之事

一、大伝馬塩町住居藏地西横町より式拾八間之所、先年拙者ニ被下置持

来候処、此度貴殿江讓申度双方より御願申候得者、松波筑後守様江奈良屋市右衛門殿より当七月十八日御内寄合江御窺被成候処、願之通被為仰付候由奈良屋市右衛門殿被仰渡、讓渡申所実正也、尤有来之藏前店等別紙之通不残相渡、本銀町土手為修復金六百貳拾兩慥ニ請取申候、自今右藏地讓渡申上者至子孫迄横合より違乱申者無御座候、為後日讓証文仍如件

西組屋町

元文四年未七月

譲り主 坂部五郎左衛門

家守 十兵衛

口入人 宮辺又四郎

馬込勘解由殿

証文之事

一、大伝馬塩町貴殿御所持之住居藏地、此度勘解由方江讓請申度双方より御願申上候得者願之通被仰付、依之讓請申所実正也、尤有来土藏前店等別紙書付之通請取申候、尤本銀町土手為修復料文金六百貳拾兩之内四百七拾兩唯今相渡、残文金百五拾兩者来ル子年迄兩人方より急度相済可申候、万一相滞候ハ、如何様ニも御掛り可被成候、為後日仍如件

元文四年未七月

馬込勘解由

宮部又四郎

坂部五郎左衛門殿

右証文宝曆十一巳五月七日五郎左衛門殿持參被相返候、依之又四郎殿印形消、札申遣

一札之事

一、大伝馬塩町坂部五郎左衛門殿所持之住居藏地貳拾八間之所、我等由緒有之此度讓請、本銀町土手為修復料四百七拾兩請取、則五郎左衛門殿江各立合之上相渡申候、然上者名前之儀者我等名前ニ而有之候得共各より金子被差出候間、其元より被致家作普請店賃等御取立可被成候、勿論上納金・公役・町役共其元より御勤可被成候、讓証文我等名前ニ而有之候間為断如斯候、仍如件

元文四年未七月廿一日

馬込勘解由

喜多出四郎左衛門殿

伊勢屋権兵衛殿

竹屋市兵衛殿

一札之事

一、貴殿方より坂部五郎左衛門殿江御内縁御座候ニ付、右五郎左衛門殿御所持之町内西横町貳拾八間之住居藏地・家藏共、拙者共三人望ニ付貴殿御頼申、文金四百七拾兩差出、御名前を以讓請申候、尤右讓証文貴殿御名前故、拙者共三人方江添証文御渡被成慥請取申候、然上者向後右貳拾八間之場所、御名前ニ而家守附置、公役町儀諸人用共拙者共三人方より相勤可申候、為後日証文仍如件

元文四年未七月

四郎左衛門

市兵衛

権兵衛

馬込勘解由殿

前書之通、大伝馬塩町貳拾八間之住居藏地、只今迄五郎左衛門ニ被下置

持来申候処、此度名主勘解由方江右住居藏地相讓申度奉存候、尤勘解由儀五郎左衛門縁者ニ而、勿論右場所勘解由支配場ニ而御座候ニ付旁勘解由方江相讓申度奉願上候、勘解由儀も右之場所讓請申度奉存候、并惣藏主共茂兩人願之通被仰付候而茂外江相障候儀も無御座候間、願之通被仰付被下候様双方一同奉願候ニ付、未七月十八日御内寄合ニ而 筑後守様江御窺之上、兩人之者共願之通被仰付難有奉存候、然ル上者証文之通急度相守、住居藏普請丈夫ニ仕立、尤来申年より来ル巳年迄拾ヶ年之間上納金無相違差上可申候、為後証願人共判形証文差上候所仍如件

元文四年未七月

大伝馬塩町 五郎左衛門
藏地主 勘解由
同所
小伝馬上町 又四郎
藏地主 善兵衛
本銀町壱丁目
藏地主 同所
同 四郎右衛門

一、大伝馬塩町土手向四人之屋敷去子年御用地ニ被召上、尤川岸通り八間通藏地ニ可被下置旨被仰渡候ニ付、右四人之者屋敷之儀ハ裏行八間通りニ而御座候ニ付、居すわり之御願度々申上、段々御詮議之上、絵図差上候処、奈良屋殿ニ而藏棟合五間宛之割合絵図御拵被成、藏与藏之間九尺宛空地、右九尺空地之内壱間者御 公儀地、残三尺者藏主壱人より壱尺五寸宛之手前地面之内明候而、両藏之間兩人分ニ

而三尺与御 公儀地老間ニ而九尺宛空地、右割合之通享保六年丑四月十四日御検地相極藏地面ニ被下置、四人之者請取申候、同日御与力本部藤次兵衛様・福島左太夫様、御同心衆和田七郎左衛門様・中島与右衛門様、奈良屋市右衛門殿・樽屋三右衛門殿御定杭相極り申候、尤本坪絵図・当絵図共式枚出来仕候

惣裏幅田舎間廿三間三尺

表田舎間七間老尺三寸	同三間三尺七寸	同六間半	同断
七間六寸九分	三間三尺九分	六間式尺四寸六分	同断
神田紺屋町 式丁目横	同所	同所	同所

(口絵1参照)

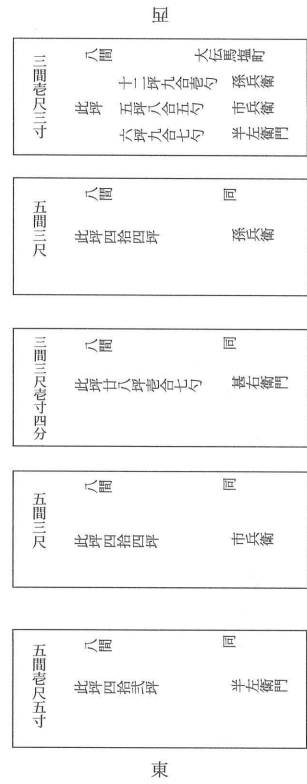
表惣間数式拾三間五尺
惣坪数百八拾三坪九合
惣代金貳千貳百四両貳分余

享保五年子七月

丑正月九日上候扣

大伝馬塩町 元坪之扣

右者大伝馬塩町土手向四人之者藏地之元坪絵図



惣

惣間口式拾六間五尺九寸四分

大伝馬塩町

享保六年丑四月十四日、右之通藏地御定杭相極地面請取申候ニ付、奈良屋殿より間数割合被成御出し被成候絵図則寫置者也

地割之節証文之事

一、今度私共町々御用地ニ被召上、柳原元誓願寺前武士屋敷上ヶ地兩所之内ニおゐて御代地、町屋之方者当丑二月廿八日御渡被成奉請取置候、九軒町八兵衛・八兵衛・三右衛門、小伝馬上町分不殘、道有屋敷・伝右衛門、此者共者願ニ付元坪高之内元地跡川岸通ニ而藏地被下置候ニ付、藏与藏与之間九尺宛明申候様被仰付、右九尺宛之明地之内、六尺通坪数ハ御代地町屋之方ニ而先達而御足坪被下置候、三尺通之明者御渡被成候藏地間口之内より銘々三尺宛差出、合九尺宛藏

之間明可申候、先達而御渡被成候町屋之方与今日御渡被成候藏地与兩所ニ而都合元地高之通奉請取候、小伝馬上町分之内佐兵衛儀者小坪ニ付元坪高之通不殘藏地ニ而奉請取候、并大伝馬塩町分者願ニ付元坪高之通不殘元地跡川岸通りニ而藏地被下置候ニ付、藏之間明キ九尺之内、六尺通之坪数者御渡被成候藏地西之方ニ而御足坪之藏地被下置候、三尺通之明キ者御渡被成候藏地間口之内より銘々三尺宛差出、合九尺宛藏之間明ケ可申候、尤元坪高之通不殘藏地ニ而奉請取候、依之今日各様御出、銘々御渡被成、四方間数・坪数相違無御座候、右絵図面傍示杭之通槌奉請取候、為後日仍如件

享保六年丑四月十四日

大伝馬塩町

孫兵衛

名主

甚右衛門

九軒町

市兵衛

名主

半左衛門

小伝馬上町

勘解由

名主

八兵衛

名主

三右衛門

道有屋敷

弥左衛門

名主

清左衛門

又四郎

安兵衛

又四郎

佐兵衛

又四郎

八右衛門

又四郎

伊兵衛

又四郎

伝右衛門

又四郎

又四郎

二通
福島左太夫殿

町年寄衆中 壹通
樽屋三右衛門殿 壹通

右之通都合四通、御掛奈良屋殿江四月十六日差出ス
塩町四人之外ニ小伝馬上町・九軒町・道有屋敷之家主中一同之連判

一、大伝馬塩町甚右衛門申上候、私居屋敷跡表田舎間三間三尺壹寸四分裏間口同断、藏地居すわりニ被為 仰付難有奉存候、然処唯今迄有来候土藏、明キ九尺之内江西方六寸程、同裏方ニ而四寸、東之方ニ而式寸程、同裏之方ニ而式寸五分程、右九尺之内江出申候、重而土藏修復仕候節者御定之通之明キニ可仕候間、夫迄之内ハ唯今迄之通ニ御免被為遊被下候ハ、難有可奉存候、以上

大伝馬塩町
訴訟人 甚右衛門
享保六年丑四月十七日

右之通相認、奈良屋殿当日持参仕候処、翌十八日 越前守様御内寄合ニ御窺被成候由ニ而、十八日晚方被召呼、願之通重而修復迄御免被成候由被仰渡候

〔朱書〕
「十四」 差上申証文之事

一、大伝馬塩町藏地続阿部友之進拝借地、名主無御座候ニ付、大伝馬塩町名主勘解由支配附申度段奉願候処、願之通被仰付難有奉存候、然

上者諸御法度・御触事・其外出入等之儀、拙者共者不及申借屋・店借等迄右勘解由支配を請、急度相守可申候、為後日連判之手形差上申候、仍如件

元文二年巳二月廿三日

町三人
年寄衆中

右之通拙者支配ニ被仰付難有奉存候、然上者諸事入念急度相勤可申候、以上

大伝馬塩町
名主 勘解由

右之通三通年寄衆三軒江持参致候

差上申証文之事

一、大伝馬塩町藏地続阿部友之進拝借地、名主無御座候ニ付、大伝馬塩町名主勘解由支配附申度段奉願候処、願之通被 仰付難有奉存候、然上者諸御法度・御触事・其外出入等之儀、拙者共者不及申借屋・店借り等迄右勘解由支配を以急度相守可申候、為後日連判之手形差上申候、仍如件

元文二年巳二月

町三人

阿部友之進拝借地
地守 藤 吉
同 三四郎

年寄衆中

前書之通拙者共願ニ付、向後御支配ニ罷成候上者、万事被仰渡之趣無違背急度相守可申候、以上

巳二月廿三日

馬込勘解由殿

阿部友之進拜借地
地守 藤吉
同 三四郎

右之通証文別紙ニ取置候

〔朱書〕
十五

大伝馬塩町統阿部友之進拜借仕候葉草場之内ニ有之候式間ニ

八間之藁葺小屋之儀、御吟味御座候ニ付左ニ申上候

一、享保十三年申十一月十六日 諏訪美濃守様御在役之節右場所被 仰付候砌右之小屋建置、其後享保十五年塗屋御改之節右之小屋土ニ而塗候様被仰付則塗差置申候処、其以後破損仕候得共友之進身上不如意ニ付修復難仕、右之通差置申候由申候、然処当春塗家ニ仕候様申渡候而、普請仕候筈ニ御座候得共延引ニ罷成申候

右之通御吟味ニ付申上候、以上

戌三月晦日

名主勘解由外御用ニ而
在方江罷越候ニ付
代 (寄白々々)

右者寛保二年、外ニ友之進差出候御帳面此方ニ有之候

〔朱書〕
十六

大伝馬塩町竹屋吉右衛門、材木商売仕候ニ付、深川木場ニ而木置場拜借仕候処、右之商売相止真綿問屋仕候ニ付、木置場屋敷之証文差上候ニ付、書付左之通

差上申証文之事

一、深川木場表京間拾貳間裏行貳拾間之屋敷、私従弟小久保新三郎材木商売仕候ニ付、四十式年以前拜借仕候処、私茂材木商売仕候ニ付拾五年以前私方江讓、跡木置場ニ仕候処、唯今者材木商売相止、真綿問屋仕罷在候、以上

元録十三年辰六月晦日

町三人
年寄衆中

大伝馬塩町

竹屋吉右衛門

右吉右衛門申上候通相違無御座候、材木商売相止、只今真綿問屋仕候、以上

五人組 四郎左衛門
同 清兵衛
同 九兵衛
名主 勘解由

右之通竹屋吉右衛門深川木置場屋敷之証文、奈良屋市右衛門殿江差出、但去年五月吉右衛門一判ニ而差出候由

〔朱書〕
十七

大伝馬町壺丁目横町家持市郎兵衛所持地面間数不足ニ付、改

之上証文取候事

一、大伝馬町壺丁目横町表間口三間口之家屋敷、四年以前寅年長谷川次郎兵衛方より買取申候処、同年九月類焼ニ逢申候故屋敷境目難知候ニ付、表間口改申度段貴殿江願候処、双方立合見分仕候得者市郎兵衛三間口五寸不足有之候、同裏幅三間之所壺尺六寸不足有之候、淨本坊表間口式間壺尺五寸之所三寸不足有之候、同裏幅式間壺尺五寸相違無之、尤壳券状致披見無出入相濟申候、依境目相極申所実正也、尤証文表三間口与有之候得共、右之通不足紛無之候、為後日仍如件

元録十四年巳四月十四日

馬込勘解由殿

市郎兵衛 印
淨 本 印

御代官所より御上納金之内預候ニ付所持屋敷書上証文

証文之事

一、大伝馬塩町東横町中屋敷表口京間八間裏行町並式拾間、壳券千三百両、丸屋三郎左衛門家屋敷ニ紛無御座候、丸屋三郎左衛門御屋敷江御出入仕候ニ付、孫右衛門様御代官所御物成金御上納之内為御用心与御預ケ置被遊候、右之御金預り置火事又者盗人ニ逢候而紛失仕候歟、其外何様之儀ニ而紛失仕候共、御上納金之儀ニ御座候得者少も無遅々弁差上申候、万一滞申候ハ、右壳券状千三百両之家屋敷御取上被遊候共、又者拙者共立合早速相払御預之金高程差上候共、其節御意次第少も遅々仕間敷候、尤右家屋敷御 公儀様一切拝借等無御座候、何方よりも構無御座候、若滞候儀御座候ハ、此証文判形之者共急度埒明、御上納之節差支申間敷候、無御氣遣三郎左衛門手形を以御預

置可被遊候、為後日名主・五人組請負証文仍如件

元録十六年未五月

丸屋 三郎左衛門
五人組 久左衛門
同 伝左衛門
同 茂左衛門
名主 勘解由
市川様御内
木村仁左衛門殿
柳田伝右衛門殿

〔朱書〕十八

清須美源太郎御前借金請取候ニ付所持屋敷書上之事

口上

一、今度清須美源太郎御前借金請取候ニ付、家質証文御納戸江差上申候ニ付、家屋敷之儀御尋被成候、則源太郎家屋敷通旅籠町北側西角より五軒目ニ而、表京間七間半口裏行町並源太郎屋敷ニ紛無御座候、為其口上書名主・五人組印形仕差上申候、以上

通旅籠町

清須美源太郎屋敷

五人組 三左衛門

同 八郎右衛門

同 五左衛門

名主 勘解由

町三人

年寄衆中

〔朱書〕
十九

一、大伝馬塩町久左衛門此度新規ニ湯屋仕候ニ付、町内近辺障無之候哉
与御吟味被成候間、町内近所迄承届候処何茂障申儀無御座候、久左
衛門願之通 御公儀様江被 仰上可被下候、尤火之用心之儀随分見
廻大切ニ可仕候、以上

元禄十一年寅十一月七日

久左衛門五人組

茂左衛門

伝左衛門

五郎右衛門

湯屋

久左衛門

名主

勘解由殿

〔朱書〕
〔廿〕 奈良屋ニ而御尋被成候湯屋之儀ニ付返答書

越前守様御掛言上御帳写

享保十八年丑四月六日

一、深川南松代町勘兵衛申上候、私儀本所猿江町ニ而只今迄湯屋仕候所、此
度私町内太右衛門地を借湯屋仕度旨先月廿九日当御番所江御訴訟申
上候得者御見分被下候処、北松代町湯屋喜兵衛・茅場町湯屋孫兵衛・
柳原三丁目湯屋喜左衛門右之者共相障候ニ付、御吟味之上今日下
野守殿御内寄合江一件被召出、右喜兵衛・孫兵衛・喜左衛門願者御
取上無之、私願之通被仰付、尤火之元入念候様被仰渡奉畏難有奉存
候、為後日申上候由、右之勘兵衛・五人組・名主同意申来候

北松代町湯屋喜兵衛所より勘兵衛願場迄ハ、其間壱町拾貳間程有
之、本所堅川四之橋を隔候、道法ハ近候得共川橋を隔候故、喜兵

衛障候義御構無之候

茅場町孫兵衛・柳原三丁目喜左衛門江者三四町程隔候

一、四年以前巳年三月深川元町三右衛門地借長兵衛与申者、新規湯屋
越前守様江奉願候処、同所八名川町湯屋八右衛門間貳町程、同所六
間堀湯屋庄三郎者三町余隔有之候、相障候ニ付長兵衛願不被仰付候

元文五年申正月廿五日